1－4　外国産食糧用小麦の需要量

平成27年度の外国産食糧用小麦の需要量は、同年度の食糧用小麦の総需要量571万トンから国内産食糧用小麦流通量79万トン及び米粉用国内産米流通量２万トンを差し引いて490万トンと見通します（表４）。

1－5　外国産食糧用小麦の備蓄目標数量

現在、不測の事態に備え、国全体として外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分の備蓄を行っています。

このため、平成27年度の備蓄目標は、94万トンとします（表４）。

なお、民間の実需者が2.3か月分を備蓄する場合、そのうち1.8か月分について、国が保管料を助成します。

1－6　外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）

平成27年度の外国産食糧用小麦の輸入量は、外国産食糧用小麦の需要量に備蓄数量の増減分を加えた489万トンと見通します（表４）。

なお、飼料用小麦の輸入については、別途、農林水産大臣が定める飼料需給計画に基づき行います。

表４　平成27年度の食糧用小麦の需給に関する見通し

（単位：万トン）

総需要量		A	571
国内産	国内産食糧用小麦の流通量	B	79
	米粉用国内産米流通量	C	2
	計	D＝B＋C	81
外国産食糧用小麦の需要量		E＝A－D	490
外国産食糧用小麦の備蓄数量			
	26年度（見込み）	a	94
	27年度（目標）	b	94
	増減	F＝b－a	0
外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）		G＝E＋F	489

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

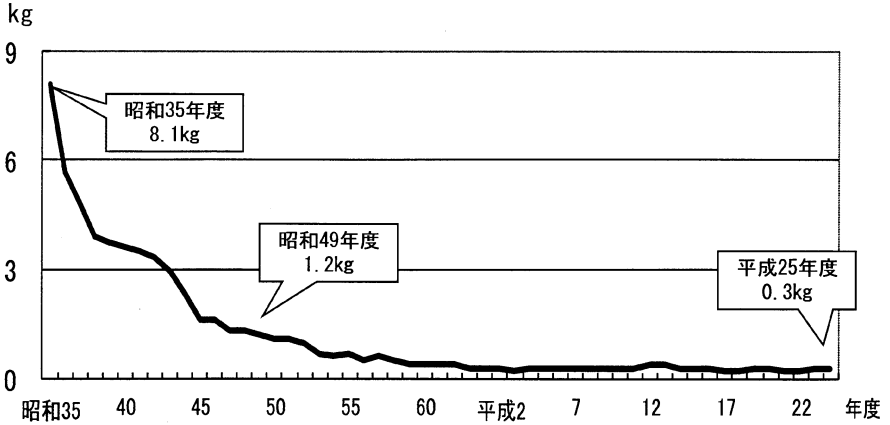
2－1　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量

近年、食糧用大麦及びはだか麦の１人当たりの年間消費量は、概ね0.2～0.3kgで安定的に推移している中（図２）、総人口についても、ここ数年では大きな変動がみられません。

このため、食糧用大麦及びはだか麦の総需要量㈱は、短期的な変動はあるものの中期的には安定していることから、平成27年度の食糧用大麦及びはだか麦の総需要量は、過去５か年（平成22年度から平成26年度まで）の平均総需要量である33万トンと見通します（表５）。

㈱　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量は、国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量及び政府からの外国産食糧用大麦及びはだか麦の販売数量の合計である。ただし、生産者団体とビール会社との契約栽培により供給される国内産ビール大麦は含まない（以下同じ。）。

図２　食糧用大麦及びはだか麦の消費量の推移（１人１年当たり）



資料：農林水産省「食料需給表」

注：平成25年度の数値は概算値である。

表５　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量の推移

（単位：万トン）

年度	総需要量	対前年度比	
平成20	38	158%	
21	33	88%	
22	33	98%	
23	31	95%	
24	34	111%	27年度見通し 33万トン （過去５か年平均）
25	31	89%	
26見込み	35	114%	

2－2　国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量

⑴　国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量（当年産の大麦及びはだか麦のうち、生産者から実需者に引き渡される数量）

平成27年産の国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量(注1)は、平成26年８月の民間流通連絡協議会において報告された平成27年産の作付予定面積（二条大麦29千ha、六条大麦17千ha、はだか麦５千ha）に、過去７か年のうち最高及び最低を除いた５か年平均の10ａ当たりの収量(注2)（二条大麦325kg、六条大麦294kg、はだか麦284kg）を乗じ、さらに、食糧用供給割合（二条大麦56.5%、六条大麦91.1%、はだか麦95.8%）(注3)を乗じて、11万トンと見通します（表６）。